

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第10回）
開催日時	平成27年5月28日（木曜日）午後2時30分から4時35分
開催場所	保谷庁舎 東分庁舎地下会議室
出席者	委員：有澤会長・宍戸副会長・松村委員・小野寺委員・小谷野委員・佐藤委員・杉原委員・可児委員・熊谷委員・久保田委員・横田委員・新出委員 欠席：田中委員・森下委員・立川委員・早田委員 事務局：等々力課長・近藤係長・石部主事
議題	議題1 中学校給食の検証について 議題2 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市立中学校完全給食について（意見）案 資料2 図 中原小学校及びひばりが丘中学校の建替え案の内容
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>事務局挨拶 学校運営課長 等々力 優</p> <p>事務局より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議成立の確認 <p>開催時の出席委員11名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認（1名遅参で結果12名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傍聴の確認 <p>なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の確認 <p>資料1、2の確認</p> <p>議題1 中学校給食の検証について</p> <p>会長：</p> <p>前回、意見書の検証項目ごとに出た意見をもとにして、案文をまとめた。資料は、新旧対照になっており、3年前の意見書の案文と今回新たに出た意見を対比できるようにした。</p> <p>さっそく意見調整を行いたいが、項目数が多いのと、文章の校正なので、全員での議論ではなく、小グループに分かれて意見調整を行い、後ほど討議結果を発表したいと思う。</p> <p>グループ分けは事務局に一任する。討議時間は60分間とする。一旦、グループ討議の時間とする。</p> <p>（「A・B」グループ討議）</p> <p>会長：</p> <p>再開する。2グループの討議内容の報告を受ける。</p> <p>委員：</p> <p>Aグループの経過を報告する。</p> <p>1のはじめに、だが、なお書きの「前回との比較」を「前回（平成24年3月の意見書）」というような注意書きがあるとわかりやすくなると思う。</p> <p>大きな2は特になし。</p>	

2 (1) だが、3行目の「児童・生徒が満足する」を削除してほしい。

2 (2) だが、7行目の「蓋の開閉がしづらくなることもあるようだが、」の直後に「場合によっては新しいものに取替ながら」という文言を加えてほしい。最終行の「可能な範囲で」という文言を「未整備の学校に関しては早急な改善が望まれる。」に変更してほしい。

2 (3) だが、4行目の「説明を行うなどの連携が求められる。」を「説明を行われているが、なお一層の」というような表現にしてはどうか。

2 (4) だが、3行目の「メニューは外すなどの配慮」を「メニューの時には当番から外す」という表現に変更してはどうか。

2 (5) だが、4行目の「保護者からこの金額についての反応はなく、」以降の2行分を全て削除してはどうか。

2 (6) だが、タイトルから「と還付」を削除してほしい。理由は、文面の3行目の「また、」以降の飲用牛乳の説明2行分を全て削除する方がよいということになり、還付に関する文言がなくなるからだ。

2 (7) だが、3行目の「行なわれて」を「行われて」に変更してほしい。

2 (8) だが、1行目の「時間の確保等の課題もあるが、」を最終行の「関わりを期待する。」の後につなぎ、「関わりを期待するが、時間の確保等の課題もある。」というような言い回しに変更してほしい。

2 (10) だが、3行目の「注意して」を「配慮している。」に変更し、それ以降の文言は削除してほしい。

2 (11) だが、2行目の「スプーンやフォーク」に「箸」も加えてほしい。同じ2行目の「二期校から改善されている。」という文言の続きに、「未改善の学校についても改善が望まれる。」という趣旨の文言を加えてほしい。

4行目の強化食器の件だが、「ひびが入ることもある。」を「ひびが入ることもあったが、取替ながら使用している。」に変更してほしい。割れたままで使っているという誤解を生じる可能性があるためだ。

6ページの3項のアンケート結果だが、全ての数値が小数点第2位までの表記になっているが、前回同様の第1位まででよいと思う。

3 (3) の下から2行目の「取り組みにより、」は「取組」でよいと思う。

4のまとめは、前回の意見書の3行目の「また、」以降を全て活用してはどうかという意見だ。ただし、文中の「取り組み」は「取組」にしてほしい。

委員：

Bグループの経過を報告する。

1はじめに、だが、中段の意見書の固有名詞の「「西東京市中学校給食について（意見）」」は、「市」ではなく「市立」だと思うが確認してほしい。

2 (1) だが、2行目の「やむを得ない点」があることで、中学にも統一した回数があるのに「やむを得ない事情によって回数に差が生じている」ともとれるので、この文言を削除してほしい。

2 (2) だが、下から3行目の「前回の意見書にもあるとおり、」だけではこれだけを読んだ人には前回の意見書が何を述べていたのかを理解するのは難しいので、24年3月の(2)の下から3行目の「夏季の衛生環境向上及び調理員の作業環境向上の観点から、」という文言に入れ替えてほしい。

2 (5) だが、4行目の「反応はなく」という言葉は別の言葉に変えた方がよいと思う。また、最終行の「長期にわたり」という文言は削除してほしい。

2 (6) だが、3行目の「飲用牛乳を飲まない生徒」を「アレルギー等により飲用牛乳を飲めない生徒については今後の検討が望まれる。」に変更してほしい。

2 (8) だが、このままの文章では、これまでの取り組みが伝わらないためにもう少し

議論の余地が残っていると思われるが、時間がなく結論が出ていない。

2 (9) だが、冒頭の「前回の意見書」とあるが、先ほどと同様の趣旨で、補足してほしい。また、1行目の「除去食の提供を行わず」の直前に「小学校とは異なり」という文言を入れてほしい。

2 (10) だが、配膳方法なのか、配送方法だったのかというそもそもの議論になったが、受け取る側の問題ということで、結果として「配膳」のままで良いとした。また、「方法に変更はなく、給食実施のための大きな障害は、現状生じていないと認められる。」を「配送方法に変更はなく、ほぼ予定どおりに実施されている。」と変えてはどうか。次に、3行目の「2時間喫食」の件は触れずに「夏季の温度管理など、衛生管理にも注意して実施しており、」としてはどうか。

2 (11) だが、4行目の「今後、食器の種類について」以降を「食器の種類については強度の面から検討することが望ましい。」としてはどうか。

6ページのアンケート結果については、数値を小数点第1位にしてはどうか。「塩分」を「食塩相当量」に入れ替えてはどうか。また、「献立作り」は「献立づくり」と仮名使いにしてほしい。

3 (4) だが、冒頭の主語として「「ほとんど残さない」と回答している生徒は、」を「主食では74.35」の前に入れた方が、理解しやすいと思う。

4のまとめは時間が足りなかった。

会長：

2グループからの報告を受けたが、付け加えることはあるか。

(「なし」)

それでは、今後の調整は正副会長に一任してほしいがいかがか。

(「異議なし」)

次回の会議に報告したい。意見書については終わりたい。

次に、新しい中学の件について事務局から報告を受ける。

課長：

資料を使って説明したい。

西東京市の中学校は、この審議会の答申により「親子方式」を採用し、その検証を行っている最中だが、ひばりが丘中の建替えに伴い、中原小の建替え計画を付け加えた方式を提案している。

市議会や中学の建替協議会の中からもさまざまな意見が出ており、その中にはこの際、中学でも単独の給食が始められないか、というものもある。なぜそのような意見が出てきているのかを配付の資料によって説明したい。

まずは建替えのための用地取得が全てのスタートになる。独立行政法人都市再生機構から土地を購入するが、これは今年度の事業になる。

2だが、その土地に新10中の校舎を平成30年までに建設する。

3だが、ひばり中の建替えの説明ではあるが、中原小も建替えの計画があり、その仮校舎として平成30年に完成する新10中の校舎を、その年の冬から約2年間、先に中原の児童に使ってもらおうという計画だ。

4だが、3で中原の児童が新10中を使っている最中に、中原小の校地に新校舎を平成32年度までに完成させ引っ越し、ひばり中の生徒はその後に古い校舎を後にして新10中に引っ越すという計画だ。

5は、最後に旧ひばり中の校舎を取壊して全ての事業が終了する。

この1から5の中で、3の中原小として新10中を使う際に、その中で中原の児童は給食を提供する必要がある。そのための給食室を新10中の校地内に仮設で作るのか。それとも、中学用の校舎ではあるが、その中に給食室を作って小学校給食を提供するのであれ

ば、そのまま施設を残して、ここだけは自校式の給食をスタートしても良いのではないか。という意見が出ている。

そこで、私たちとしては、この当たりの意見を審議会に聞いてみたいと考えており、本日の説明とした。

市全体の課題でもあり、忌憚のない意見を述べてほしい。その意見を参考とさせていただきたい。今回と次回に意見を出してほしい。

会長：

最初に説明に対する質問をしたい。

今この会議に求められているのは、中原小が2年間中学の校舎を使うことになるが、その間の給食をどうするかという意見を述べればよい、ということによろしいか。中原小を壊してしまう前に、一旦中学の校舎に移るという説明だが、その間に中原小の給食をどうするかという課題が出ている。給食の課題なので、この運審で審議してほしい、ということによろしいか。

課長：

方向性を出すということではなく、小学校のために中学の校舎で給食を始めることで、親子給食でなくなるということもあると思う。そうなってしまうと、これまでの方針と変わってしまうということもある。

会長：

親子給食でなくなるというのはどういう意味か。

課長：

新10中でのみ、自校式の給食がスタートするということもあるのではないか。

会長：

ひばり中の給食が自校式で始まるということもあり得るのか。前回の運審の答申に基づいて、この会議では親子給食の検証をしている。親子給食を100パーセント良い方式だと結論付けた訳ではないが、西東京市の現状の中では、まずまずうまく行っている。今後は、課題を改善しながらより良いものになるように、という趣旨の意見書を取りまとめようとしている。

委員：

中原小が一時的に引っ越すことにより、給食室もその中に作るということになったということによいか。

委員：

新しい校舎の中に給食室を作ってはどうかという意見も出ているということか。

課長：

そういう意見も出ているということだ。

委員：

青嵐中のときにも同じような質問が出ていたが、そのときには、この先そうなることは絶対はないという回答を得ている。ところが、今回は給食室を作ってそのまま使うということになれば、他の学校からは苦情が出るのではないか。それに対応する力はあるのか。

委員：

今の話では、新10中は最初の2年間に小学校として使うので、そのための厨房を設置するというで動いているということかと思う。

課長：

給食室を作る場合に、仮設にするのかどうかという方法などはまだ決まってはいるが、厨房は必要だということだ。

委員：

前回に親子給食を始める際に、親校の小学校ではその準備のための工事があった。そのときの工事期間中の1か月間ほど、外注のチルド弁当を用意して過ごしたことがあったが、最初の2週間程度は目先が変わって子どもも喜んでいて、それを過ぎると飽きてしまい、給食が再開しての感想は「やっぱり給食が良い」ということであつたと思う。今回の中原小の場合、中学に移転している間の2年間で代替のチルド弁当を食べ続けるのか、仮設でも良いので厨房を作って温かい給食を提供するのか。まずはその選択かと思う。

次には、厨房を作る選択をした場合は、それを中学校のために残して単独校方式の中学校給食をスタートするのか、ということだと思う。

課長：

そういう意見も出ている。弁当もその選択肢だし、課としてはこれで決定というものが出ている訳ではない中で、さまざまな意見が出ているので、委員の見解を聞いておきたいということだ。

弁当もあるだろうし、校庭に仮設給食室を作るということもあるだろうし、小学校間の親子もあるのかもしれない。

委員：

最後の提案には無理が多いと思う。小・中の親子関係を組むのにもかなり苦労した中で、中原小は大規模校なので、その食数を他の小学校で用意して運搬するということは成り立たないと思う。

会長：

今の私たちの課題は、中学校給食の検討であつた。仮称10中の建設に当たって、いろいろな意見が出ているので、運審の意見を聞きたいということなのか。

中原小の2年間の移転期間の給食はどうしたらよいのか。仮称10中の建設を見通して意見を聞きたいということによいか。

それならば、中原小の給食を止める訳にはいかないのだから新10中の中に作ってはどうか、という意見も出るかもしれないし、中学は親子給食なのだから、中学の中に給食室を作るのはおかしい、という意見も出るかもしれないし、他にもいろいろな見解が出るかもしれない。

委員：

新10中の中に仮設であつたとしても厨房を作るとなつた場合、今の中原の厨房機器を取り敢えずは持って行くのか、全く新しい備品を用意するのかによつても全く費用が異なってくると思う。全てにおいて予算が関わることだと思つたので、何が正解かは予算次第になってしまうのかもしれない。

前回の親子給食を実施しようとした際にも、これだけは改修してほしい、という提案を出しても、予算がないので拡張は無理、買えない、ということがあり、その中でも実

際に親子給食は行われている。その当たりの現実的な点も見えると良いのかもしれない。

会長：

何をするにも膨大な予算が必要になるということだ。1つの提案に対して、この程度の予算が必要、という資料を基に考えたいという提案だと思う。

○事務局：

資料はできるだけ用意したい。

先ほど会長から提起のあった「中原小の給食について」ということであると、今回のテーマとは離れ過ぎてしまうと思う。現在「中学校給食の検証について」が議題であり、それを継続審議している最中に、新しい中学の建設、という話題が出てきているということだと思う。これは、中学校に関わる問題であり、したがって、審議中の「中学校給食の検証について」の中に新10中の問題を加味してほしい、というのが願いだ。もちろん、本論は「中学校給食の検証について」である。

ところが、中原小学校の給食について、ということになると、小学校は自校での給食を行うことは議論の余地はないものと考えるので、あくまでも中学校給食をどうするのか、ということにしていきたい。現在審議会では、直近の中学校給食の実態に照らして未来の中学校給食のあり方を検証しているところなので、その未来の中には新10中の問題も含まれる、ということ考えている。

今、予算のことも話しに出ていたが、確かに予算の有無で左右されることではあろうかと思うが、先に予算の有無で議論を絞ってしまうのはどうかと思うので、まずはさまざまな意見を出してほしいと考えている。予算のことで判断をしなければならない事項に関しては、教育委員会がその後に判断していきたい。先ほどのような、厨房に入れる機器は既存の移設がよいのか、新規購入が良いのか、というような判断は皆さんからの意見を基にして、最終的には教育委員会が判断したい。

その判断までをこの会議に委ねてしまうと、残りの任期では結論は出せないと思うし、審議会の議論の範囲を超えるのではないか。その前段の議論をするための可能な限りの資料は用意したい。

委員：

西東京での中学校給食は、親子方式でないといけないということでスタートをしたと思う。そのときにも、本当に自校式はできないのか、という質問もしたが、全否定はしないが、大変難しいということで決断したと思う。

本当は、自校式が良いことはわかっており、将来の100年先を見越したときに全中学で自校式を取り入れる予定があったとすれば、なぜ青嵐中のときには選択できなかったのかが疑問である。

委員：

練馬区は中学も自校式の学校が多いが、区と西東京市の財政状況の差があり、市としては難しかったのだと思う。自校式は理想と思うが、将来の財政負担を市民全員が認めているのであれば、自校式という判断になるのだろうと思う。

今回は、新10中内に中原用の給食室を作った場合に、残った給食室でひばり中の給食を作らないということになれば問題になるということかと思う。そうなると、新10中の敷地内に給食室を作るかどうか、ということが議論の焦点かと思うがいかがか。

会長：

事務局からの説明を基に私なりにまとめると、私たちは現在、中学校給食について検

証を続けている。その延長線上で、ひばり中の建替えの問題が浮上したので、その中学校での給食の問題も意見を聞きたいということかと思う。中原小の給食のことだけでなく、市内中学の給食のあり方を検討している我々に対して、新しいひばり中の給食についてもあわせて意見を聞きたい、ということで良いか。

課長：

そのとおりだ。

会長：

ひばり中の給食をどうしたらよいのか、という意見を聞きたいということである。今私たちは、全9校の給食のあり方に対する検証を行っている最中だが、これとは別にひばり中の給食に対しての意見を求められたということだと思う。

委員：

前回、中学校給食について検証したときにも、自校式が良いという意見も出ていたが、全校への給食室設置を検討した結果、現在はその条件に満たないということであった。青嵐中は建替え中だったので、厨房を作ることはできたが、中学校給食を一斉にスタートを切りたいという時期でもあり、1校だけ違うシステムにすることへの課題も考慮して、結局青嵐も親子方式を導入した経緯があったと思う。

その際にも要望の声が高かったのは自校式であったが、ランニングコストなどを考えて親子方式の選択をした。しかし、給食の安全性、生徒の食育の観点からは、自校式が望ましいと思う。今回は、せっかく新10中に厨房を作るのなら、そこを基点として建替えのチャンスには自校式を選択していけばよいのではないか。ただし、かなりの長い時間がかかることにはなる。

親子給食方式は、調理員の負担も大きく、親校の小学校の給食でも、きめ細かな対応ができなくなるという影響はあるのが現実だ。各校が単独校ということが本来の姿ではないかと考えるし、望ましいことだ。

会長：

今日はこの程度にして、次回には、意見書の案文調整をして、その後新10中の問題について、各位考えてきてほしい。次回までには、もう少し討議のできる資料も出してほしい。

委員：

新しい学校を作るための審議会はあるのか。

○事務局：

新10中の建替え協議会がある。その中では、給食の問題は触れていない。

会長：

私たちは校舎建築のことではなく、給食のことを考えたい。

○事務局：

今審議会に出せる資料は、平成19年度に議論を進める上で参考にしたものかと思う。この資料は、今回の意見書作成の原点でもあり、前の期の委員が参考にしたもののため、この際確認しておく必要があると思う。この審議会がなぜ親子給食を選択したのか、ということ振り返る必要があると思うので、用意したい。

今回のケースに係る予算の試算だが、この審議会の議論に必要と思われる、ランニン

グコストのデータなどは可能な範囲で用意したい。

会長：

本日の会議はこの程度とする。次回までに、ある程度の考えはまとめておいてほしい。

閉会